

深部静脈血栓症血栓除去デバイス適正使用指針 20241220

患者条件 (以下の条件をすべて満たす患者)

- 1) 急性期症状のある腸骨静脈閉塞を含む深部静脈血栓症 (発症後 3 か月以内)
- 2) ①動脈虚血を伴う重症の深部静脈血栓症 (有痛性青股腫、有痛性白股腫、静脈性壊疽) あるいは、②抗凝固療法と下肢挙上あるいは圧迫療法などの適切な保存療法にても常時痛みあるいは不快感があり日常生活を著しく妨げる深部静脈血栓症 (rVCSS pain score 3 あるいは rVCSS pain score 2 かつ Villalta スコア 15 以上)
- 3) デバイスの特性を考慮すること (付記参照)。

施設条件 (以下の条件をすべて満たす施設)

- 1) 深部静脈血栓症の診療を行っており、また急性肺血栓塞栓症の迅速な診断と治療が可能なこと。
- 2) 全例患者登録に協力する施設であること。
- 3) 日本 IVR 学会、日本心血管インターベンション治療学会の認定施設 (研修施設、研修関連施設)、心臓血管外科専門医認定機構の認定修練施設 (基幹、関連) のいずれかであること。
- 4) 静脈圧迫処置認定施設である、あるいは連携していること。
注釈) 静脈圧迫処置認定施設との連携にあたっては、静脈圧迫処置認定施設と連携を所定の書式に従い申請を行い、該当の症例を連携して治療すること。
- 5) 関連学会協議会で静脈血栓除去デバイス使用の承認を得ていること。

施行医師条件 (以下の条件をすべて満たす医師)

- 1) IVR 専門医、CVIT 認定医、心臓血管外科専門医、又は日本血管外科学会認定血管内治療医
- 2) デバイスおよび病態に関する指定の講習を修了していること。

今後のエビデンスの集積、デバイス、薬剤の進歩などによって診療指針が変更となる可能性がある。この適正使用指針は 2 年以内に見直すこととする。

令和 7 年 1 月 15 日
日本インターベンショナルラジオロジー学会
日本心血管インターベンション治療学会
日本血管外科学会
日本静脈学会

付記 Penumbra 社 Indigo CAT 8 および CAT D は以下の症例でより有効である

発症 1 週間以内であること

IVC に 1 c m 以上進展していないこと

流入静脈である膝窩あるいは下腿静脈の開存があること

片側性であること

付記 Inari 社 ClotTriever は以下の症例でより有効である

発症後 3 か月以内であること

病歴あるいは画像所見から血栓内に半器質化血栓:semi-organizing thrombus (亜急性、acute on chronic) があること。

手技は膝窩あるいは大腿アプローチで行うこと

Revised Venous Clinical Severity Score: rVCSS
静脈疾患臨床重症度スコア(2010改訂版)

	なし: 0	軽度: 1	中等度: 2	重度: 3
痛み、あるいは不快感 (急な痛み、持続的な痛み、こり、うずき、張り感、筋肉痛、重苦しさ、だるさ、疲労感、ひりひり感、灼熱感、を含む)。 静脈疾患が原因と推定できる。		時々 (日常生活に支障がない)	常時 (やや日常生活の支障になるが、著しい妨げにはならない)	常時 (日常生活を著しく妨げる)